

利用上の注意

1. この「結果の概要」は、令和3年経済センサス-活動調査（以下「令和3年活動調査」という。）の調査結果のうち、製造業について以下の全てに該当する製造事業所（以下「事業所」という。）について集計したものです。

- ・ 個人経営を除く事業所であること
- ・ 従業者4人以上の事業所であること
- ・ 管理、補助的経済活動のみを行う事業所ではないこと
- ・ 製造品目別に出荷額が得られた事業所であること

2. この「結果の概要」において、平成24年、平成27年及び令和2年の数値は「経済センサス-活動調査」（以下「活動調査」という。）、その他の年次の数値は「工業統計調査」（以下「工業統計」という。）の数値です。

調査結果のうち、製造品出荷額等、付加価値額については、表示年次における1年間の数値です。また、事業所数、従業者数については、令和3年活動調査及び平成28年活動調査並びに平成29年以降の工業統計は調査年次における6月1日現在の数値、平成24年活動調査は平成24年2月1日現在の数値、上記以外の工業統計は調査（表示）年次の12月31日現在の数値です。

各年次に実施した統計調査名とそれぞれの調査時点及び調査期間は以下のとおり。

統計調査名	図表等表示	経理外項目	経理項目
		(事業所数、従業者数)	(製造品出荷額等、付加価値額、現金給与総額)
		調査時点	調査期間
平成22年(2010年)工業統計調査	平成22年	平成22年12月31日現在	平成22年1月～12月
平成24年(2012年)経済センサス-活動調査	平成23年	平成24年2月1日現在	平成23年1月～12月
平成24年(2012年)工業統計調査	平成24年	平成24年12月31日現在	平成24年1月～12月
平成25年(2013年)工業統計調査	平成25年	平成25年12月31日現在	平成25年1月～12月
平成26年(2014年)工業統計調査	平成26年	平成26年12月31日現在	平成26年1月～12月
平成28年(2016年)経済センサス-活動調査	平成27年	平成28年6月1日現在	平成27年1月～12月
平成29年(2017年)工業統計調査	平成28年	平成29年6月1日現在	平成28年1月～12月
平成30年(2018年)工業統計調査	平成29年	平成30年6月1日現在	平成29年1月～12月
令和元年(2019年)工業統計調査	平成30年	令和元年6月1日現在	平成30年1月～12月
令和2年(2020年)工業統計調査	令和元年	令和2年6月1日現在	令和元年1月～12月
令和3年(2021年)経済センサス-活動調査	令和2年	令和3年6月1日現在	令和2年1月～12月

3. 令和3年活動調査においては、個人経営を含まない集計結果であることから、令和2年工業統計と単純比較ができないことに留意してください。また、平成28年活動調査においては、事業所数、従業者数については、調査対象のうち、個人経営調査票による調査分を含んだ集計結果であるのに対し、製造品出荷額等、付加価値額は、これらの調査分を含まない集計結果です。

4. 製造品出荷額等の経理事項については、原則消費税込みで把握していますが、一部の消費税抜きの回答については、「統計調査における売上高等の集計に係る消費税の取扱いに関するガイドライン（平成27年5月19日 各府省統計主管課長等会議申合せ）」に基づき、消費税込みに補正した上で結果表として集計しています。

5. 各項目の金額は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。
統計表中、「-」は該当数値ないもの及び母数が「0」のため計算できないものとなります。
「X」は、集計対象となる事業所が1又は2であるため、集計結果をそのまま公表すると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがある場合に該当数値を秘匿した箇所です。また、集計対象が3以上の事業所に関する数値であっても、集計対象が1又は2の事業所の数値が合計との差引きで判明する箇所は、併せて「X」としてあります。更に令和2年が秘匿する必要のない箇所であっても、増減比較をする対象年次が秘匿であった場合、増減率を「X」としてあります。
6. 従業上の地位のうち雇用者の内訳について、「統計調査における労働者の区分等に関するガイドライン（平成27年5月19日 各府省統計主管課長等会議申合せ）」に基づき、「正社員、正職員」、「正社員、正職員以外」から「無期雇用者」、「有期雇用者（1か月以上）」の区分に変更を行っています。
このため、雇用者の内訳については、時系列比較を行うことはできません。
7. 調査対象事業所は、「国税庁法人番号公表サイト」情報から、過去の調査では捉えていない外観からの確認では把握が困難な事業所を加えた調査名簿を基に調査を行っています。
このため、従来の調査よりも幅広く事業所を捉えており、単純に比較ができません。集計結果の時系列比較を行う際は、十分に留意が必要です。
8. 時系列比較に用いた工業統計については、以下の点に留意してください。
- (1) 平成29年に、調査日を6月1日（従前は12月31日）に変更したため、事業所数、従業者数については同年6月1日現在の数値、経理事項（現金給与総額、製造品出荷額等、付加価値額）は調査時点の前年の1月～12月の1年間の実績です。
 - (2) 工業統計については、国に属する事業所以外の全ての事業所を調査対象として集計していますが、活動調査においては、上記3. のとおり、個人経営を除く事業所を調査対象として集計し、接続しない年があることに留意が必要です。
 - (3) 活動調査における「在庫額」については、「統計調査における売上高等の集計に係る消費税の取扱いに関するガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に従って税込み補正処理の対象外になっており、3年活動調査でもガイドラインを踏襲しています。
一方、工業統計では、連続性の観点から、「在庫額」について従前より他の記入項目同様に税込み補正処理をしています。
なお、従来の調査結果は、当時の消費税率であり、現行の税率（10%）と異なることから、時系列比較を行う際は十分な留意が必要です。

11. 表、グラフなどで用いる産業名の略称は以下のとおり。

産業中分類名	略称	産業中分類名	略称
09 食料品製造業	食料	21 窯業・土石製品製造業	窯業
10 飲料・たばこ・飼料製造業	飲料	22 鉄鋼業	鉄鋼
11 繊維工業	繊維	23 非鉄金属製造業	非鉄
12 木材・木製品製造業（家具を除く）	木材	24 金属製品製造業	金属
13 家具・装備品製造業	家具	25 はん用機械器具製造業	は用
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	紙パ	26 生産用機械器具製造業	生産
15 印刷・同関連業	印刷	27 業務用機械器具製造業	業務
16 化学工業	化学	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	電子
17 石油製品・石炭製品製造業	石油	29 電気機械器具製造業	電気
18 プラスチック製品製造業（別掲を除く）	プラ	30 情報通信機械器具製造業	情報
19 ゴム製品製造業	ゴム	31 輸送用機械器具製造業	輸送
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	皮革	32 その他の製造業	その他